

○24時間常駐型、共同生活タイプ（7人の共同生活）のグループホームへの退院を目指している。

	グループホームで受け入れるために、退院までにやっておきたいこと		退院後にチャレンジできること
	入院中の状態（本人の現状）	入院中に出来るようになること。	グループホーム入居後に目指すこと（今後の目標）
①食事・片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂での大人数で食べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器洗いが出来るようになる。（OT活動で取り入れることが出来ないか）</li> <li>・自分で残飯を片付ける。→水につける。→外泊時には自分で食器を洗えるように練習が出来るとよい。</li> <li>・食事を自分で取りに行く。</li> <li>・時間には自分の席に着く。</li> <li>・配膳下膳は自分でできる。</li> <li>・手洗いが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院での習慣を継続していく。</li> <li>・下膳後の食器の洗浄。</li> <li>・簡単な調理、電子レンジの利用。</li> <li>・調理の方法を動画で見る。</li> </ul>
②毎日の整容・清潔保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声掛けがないと出来ないのかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝起きたら整容（洗顔、歯磨き）をするというルーティンを作る。清潔意識の習慣化。（視覚的に理解できるようにスケジュール等で）</li> <li>・爪切り、髭剃り（電気シェーバーで）の練習。</li> <li>・自発的に出来るような工夫を行う。（目的を伝える。出来たらシールを貼る等）</li> </ul> <p>【本人が達成感を感じれるような支援】</p>	
③着替え		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の習慣づけを行う。</li> <li>・かごに明日着る衣類を事前に準備する。（最終的には自分で）</li> </ul>	
④排泄・トイレの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の確認、排泄に関する意識、スキルを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座ってする習慣をつける。</li> <li>・トイレトペーパーの使い方、使う量についての指導。</li> <li>・夜間、眠剤服用後のトイレ移動時の危機管理についての声掛け。寝る前にトイレに行く習慣をつける。</li> <li>・後始末特に便のふき取りについて指導を行う。</li> <li>・衣類やトイレ（室内、便座）が汚れた時にスタッフに声掛けをするよう指導していく。</li> <li>・本人の状況の確認する。（汚れているのに着替ええないのか、拭き上げが出来ていないのか等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑巾で片付けるトレーニング。</li> <li>・練習した内容を習慣化出来る方法を見つける。</li> </ul>
⑤入浴		<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に3回は入浴するという習慣をつけていく。</li> <li>・洗身、洗髪は見守りで行い、出来るだけ自分で行えるよう働きかけを行う。</li> <li>・湯船に浸かる時間を本人が自覚できるようにタイマーを利用する。</li> <li>・予め入浴の時間を伝え、浴室には時間に自分で行けるようになる。</li> <li>・入院中にいろいろ試してみて本人が出来ることを確認していく。</li> </ul> <p>【必要な道具（exタイマーなど）を用意していく。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に洗い残しがないように洗身、洗髪が行えるようになる。</li> </ul>

	グループホームで受け入れるために、退院までにやっておきたいこと。		退院後にチャレンジできること。
	入院中の状態（本人の現状）	入院中に出来るようになることとよいこと。	グループホーム入居後に目指すこと（今後の目標）
⑥服薬、体調不良時、SOSの出し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬について入院中はスタッフが管理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人になった時を想定してどこまでできるのか入院中に確認しておく。</li> <li>誤薬がないように工夫をする。（目印をつける、カレンダーにセットする等）</li> <li>大体退院の見通しが決まってから1日分→数日→1週間と段階を追って自己管理が出来るようにしていく。</li> <li>服薬時間になったら自分でもらいに来て飲むことが出来る。</li> <li>体調不良を自分から訴えることが出来る。その後の対応（薬をもらう）迄出来るようになる。</li> <li>服薬については、促しでも確実に飲めるように指導を行っていく。</li> <li>クライシスプランなどを作り、自身で病状変化の目安（発言、行動等）、パターンなどを入院中に集約し、退院後利用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院で行ったことを継続していく。</li> <li>出来れば1日分自己管理ができることを目指していく。</li> <li>訪問看護と連携して、本人の情報のやり取りを行っていく。</li> </ul>
⑦洗濯、掃除	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯、掃除は未経験。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度洗濯の一連の行為について入院中に経験してみる。グループホームの状況、本人の能力によって、干す、たたむ、片付ける等必要なところまで練習する。</li> <li>掃除はスタッフと一緒に身の回りのところ、出来ることからやってみる。</li> <li>週〇回、何曜日と掃除、洗濯を行う日を決め実行出来るよう指導を行っていく。</li> <li>実際に使う洗濯機、掃除機の確認を事前に行っておく。</li> </ul>	
⑧嗜好品		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のコーヒーについては約束が守れているので、今後も続ける。</li> <li>病院で出来ている習慣を退院後も継続していく。</li> <li>今の楽しみは継続していく。今後どうしたいかについても本人聞いていく。</li> <li>現状なぜ1本なのか、現在喫煙欲求があるのか、その他マナーが守れるのか確認を病院で行ったうえ退院先へ情報共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お菓子なども初めは入院時の約束を継続していく。</li> <li>お金がありすぎると嗜好品も買いすぎるので使いすぎないようにお小遣いも小額から始める。</li> </ul>
⑨外出		<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ付き添いで外出（買い物等）の練習をする。</li> <li>外出時は時間を守って帰ってくるように声掛けを行う。</li> <li>グループホームへの外泊をやってみる。</li> <li>外出中に買い物などが出来るのか事前に確認しておく。（病院も外出、外泊中の本人の様子、情報については把握したいと思われる。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆくゆくは一人で買い物が出来るよう、支援を継続していく。</li> </ul>
⑩その他 （金銭管理他）		<ul style="list-style-type: none"> <li>初めは、どれくらい本人で自己管理が出来るかわからないので、本人の希望に合わせてお小遣いを設定する方法もありではないか。</li> <li>あまり多くない額でお小遣いを設定して自己管理を行ってみる。</li> <li>クレジットカード等は使わない。基本現金。</li> <li>携帯電話の使い方を指導していく。</li> <li>ある程度管理は出来たほうが良いが、人と人の貸し借りなど決まり事は守れるように伝えていく。</li> <li>本人が一人で買い物が出来るのか、お金の管理がどこまでできるのか確認を行う。</li> <li>両親以外で支援をしてくれる家族、友人がいるのか確認が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お小遣いについては初めは短い期間から1週間分、10日分、1ヶ月分と自己管理をする期間、金額を増やしていく。</li> </ul>

◎その他何か、項目以外で記入することがあればこちらにご記入ください。

- ・本人がグループホームに行く動機付け、意識付けが出来てくると、入院中に退院に向けた練習を頑張れるきっかけになると思う。
- ・声掛け、介入などの支援に対して拒否が出ないような関係づくりが必要である。